

=====
070704-6 IPPJ 説明会の内容と質疑応答
=====

2007・7・19 作成、7・22補充
「根子岳風力発電を考える連絡協議会」

須坂市主催で3ヶ所で実施された。

7/4(水)	市内公民館	19:00-21:30	約100人参加
7/6(金)	峰の原	09:30-11:30	約 50人
7/6(金)	仁礼会館	19:00-21:00	約 50人

出席：仁礼会：駒津事務局長、(仁礼会館では高橋理事長もひな壇に)
事業者 IPPJ：清田開発部長＋依田須坂支店長
日本気象協会：魚崎耕平氏、
須坂市：三木市長(公民館のみ出席)＋善財部長＋渡辺課長(司会)＋山崎代理

7/4 市内公民館

●善財部長あいさつ：

災害・水源・動植物などへの影響を心配する意見もでている。この事業には須坂市や上田市での地元説明や同意が必要とされる。風力発電だけでなく、環境や生活のあり方も考えてほしい。

●駒津事務長あいさつ：

温暖化対策の事業なので賛同した。事業性を考えて判断したい。よく調査し影響の少ない方法を選択したい。

●IPPJ 清田開発部長の説明：(他の2箇所もほぼ同一内容)

◎なぜ風力発電か？ 温暖化の影響は深刻。京都議定書目標。風力発電はCO2削減になる。世界の風力導入量比較。県別比較。風況適地は限定され、峰の原は見込み有り。

◎事業概要。現地法人つくり納税面で地元寄与できる。今年8～9月の開設目標(* @仁礼会館)直江津港から輸送(*)。搬入路はクラブハウス下～料金所～登山道北。全長6km。5m幅。中電下八町変電所に接続(*)。距離16km。

11～16基の予定で、調査結果みて決定する。発電量とCO2削減量試算値。土地改変面積(搬入路込み)は4～6ha。基礎図面－茨城県常陸太田市里美牧場(県立自然公園普通地域)の例。残土量397m³。コンクリ量も同量(*)。

羽根は搬入路のカーブでは斜めに立てて運ぶ(起立機使用)(*)。組立ヤードは50x25m。重機下などは鉄板敷く(*)。法面やヤードは工事終了後植栽する。里美牧場では牧草で植栽(*)。峰の原では専門家に相談して植栽する。

◎回答書の説明。追加調査項目は、低周波、地形地質、水質。
水源地付近は改変しない(*)。杭打ち工法は採らない(*)。
バードストライクの発生確率データ(*)。日本風力発電協会作成と米国のデータ例。
景観調査地点は増やすよう検討中。メリットとデメリットを量的比較し最終結論を出す。

7/4 市内公民館での質問と回答(約 60 分) (回答 A は特記ない場合 IPPJ 清田氏)

●Q 市内男性。送電はどうなるか？

→A 発電は640V、鉄塔内の変圧器で2~3万Vに昇圧して16km送電(*)。
送電線直下で電磁波200mG(*)。家庭内と同程度以下。87年WHOで無害とされている。

●Q 市内男性。雪・氷・雷・風向変動について検討したか？阿蘇山での油漏れなどの事故例をどうみているか？

→A 北海道でも運転されている。エコテクニア社製品は油漏れしない。

Q 不明な点は次回までにチャンと調査して回答されたし。

●Q 市内男性。水源に近く影響が心配。

→A 昨年11月の配置図は仮のもので、位置を変更する(*)。

●Q 峰」男性。クロマメノキの調査や評価の方法は？搬入路は急勾配だが舗装するのか？

→A 舗装しない、砂利道のまま。保守員は4WD使う。

●Q 市内男性。仁礼会に質問します。事業性を判断とは？

→A 駒津氏。継続可能かの判断。

事業実施を自主性をもって判断するのか？

→A 駒津氏。そうする。

入山禁止看板の趣旨は？

→A 駒津氏。山林に入るのは禁止。かつてによその家の庭に入れれないのと同様。登山道はOK。
調査塔地域に立入るなら連絡してほしい。

●Q 峰の原男性。観光に影響して地域衰退にならないか。製造から撤去まで多大な負荷がかかる。17年後に更地にもどすというが自然の原状回復は困難。仁礼会のメリットは何か。

→A 風車見物もあり、単純にはいけない。

→A 駒津氏。地域が衰退するとは決めつけられない。仁礼会のメリットは賃貸料と温暖化防止。

●Q 峰の原女性。事業は17年しかない。撤去後の自然回復は困難。補助金申請1年延期の理由は。

→A 最短スケジュールで考えていたが、延びた。来年5月も最短での予定。

●Q 峰の原男性。CO2削減量の日本全体での比率はどれ位か。

→A 少ない割合かもしれないが、積み重ねが大事。

●Q 市内男性。県の水源保全条例への考え方は。→A ？

■渡辺課長閉会： 今日でた意見は後日まとめて市民に広報する。

7/6 峰の原会場での質問と回答

●Q 峰の原男性。今日発言できるのは区民のみか？→A 限定しない。

●Q 峰の原男性。1) 以前の説明会で「イヌワシに影響があれば計画を中止する」と回答したが、覚えていますか。

→A 覚えていない。何らかの影響はある。専門家が影響の程度を評価し、影響ありと判断すれば計画中止する。(回答者が興奮し、司会が注意する場面も)

2) 長野県作成の影響想定マップで「レベル1」地域が計画地に含まれているが、どう判断しているか。

→A マスキングなしのマップを県から受け取ったが、他言しない約束であり、ここでは言えない。

3) レベル1地域なら「きわめて重大な影響を与えるおそれ」のある場所です。また、県の告示によると、保護育成計画で「生息環境の改善」が義務付けられます。考慮して下さい。

●Q 峰の原男性。住民説明会は須坂市が中心となって進行してもらいたい。

説明会では、回答がその度に変ることのないよう、録音、できれば録画しておいてほしい。

→A 渡辺課長。今日は録音している。

●Q 峰の原女性。いつも説明が具体的でなく、どういう調査をするのかわからない。佐田岬では騒音が問題になっている。

→A 魚崎氏。評価書ではわかりやすく書く。

●Q 峰の原男性。騒音は「ささやき声」程度というが、もともとが静寂地なので耳障りになる。静寂性がこの観光の長所でもあり、営業に影響がでる。

→A 魚崎氏。「ささやき声」程度でもかなり耳障りになることがある。地形や風向きで聞こえる条件が変わるので、いろんな場所で長期間かけて調査する必要がある。

Q 実際に近いデータを予測し、「想定しなかった」ということのないようにしてほしい。

●Q 峰の原女性。国立公園は景観と生態系を守る場所。イヌワシへの影響が心配。風車は既に1000基以上も全国にあり、観光客が増えるとは思えない。風車の故障のうち自然現象に原因するものが38%もあるという。水源への影響や災害不安がある。このような場所では補助金のムダ使いになる。温暖化防止には省エネが効果的。

●Q 峰の原男性。1) 低周波音は防御する手段がない。植生、地形、地盤により伝播程度が異なる。騒音評価も、ここは本当に静かな場所で、これが観光の長所でもあるので、騒音の多い他の場所との相対的比較ではなく、ここでの特徴をふまえて評価してほしい。

2) 「工事車両の影響は軽微」と断定しているが、それはおかしい。10トンダンプが坂道をフルスロットルで登れば、すごい騒音だ。風車1基で67台なら往復134台、10基で1000台以上になる。トラックは低騒音・低排ガス仕様車なのか。交通事故のおそれも心配。(注、67台x2x16基=2144台。生コン車も同程度か?)

→A 魚崎氏。1) 地形や空気条件などの影響も考慮して何日間も調査する。

2)使用トラックの騒音や排ガスの程度も調べる。工事車両走行の影響は調査する。(注、「影響は軽微(だから調査省略)」を事実上撤回)

●Q 峰の原男性。水質について、コンクリのアク、車両排ガスの影響はどうか。

→A 魚崎氏。アルカリ水が漏れないよう工事する。漏れた分は中和する。排ガスの影響も検討してみる。(注、漏れたアルカリ水をタンクに回収して酸で中和するのか？ 中和水は放流？)

●Q 峰の原女性。温暖化防止の必要性は、ここにいる皆が理解している。しかし、この場所に計画することには納得できない。

1)菅平では松代地震で水源が涸れてしまい、遠く渋沢から水をもらうことになり、高い水道料金をはらうハメになったという。基礎工事や風車の回転振動などで水量が減少しないか心配です。

2)豪雨による浸蝕で登山道が荒れた経験があるが、組立ヤードや工事用道路の浸蝕をどう考えているか。

3)動植物調査は3日間ぐらいでできるものではない。

4)地元専門家に依頼するというが、その人達の氏名を明らかにしてほしい。

→A1)水源については水質だけでなく、水量も調査する。

2)雨水の流れ方も調査する。

→A 魚崎。3)種毎に時期が異なるので、何回も何日も調査することになる。

4)地元専門家とは県審議会の委員やその他であるが、氏名公表は本人了解を得てからになる。

●Q 峰の原男性。風力発電は温暖化防止対策だから環境のためになるというが、水源、災害、動植物などの問題がいくつもある。本当に環境のためになると思っているのか。

→A 調査結果をみて判断したい。

●Q 上田市男性。土地改変面積や掘削土量のデータは茨城県でのデータなのか。ここでのデータを出すべきでないか。

→A 地盤調査・土木設計をふまえて、データを出す。

●Q 峰の原男性。温暖化防止の重要性はよくわかる。しかしここでは問題が多い。

1)自然や山岳は観光資源だが、工事でこれらが損なわれ観光が衰退したら補償するのか。

2)住民が賛否に別れミゾができては、協力体制がくずれ村の衰退につながる。峰の原と上田市側の菅平の間にもミゾができ、村の持続性に問題が出る。市長が市内公民館の説明会には出たのに、ここには来ないのも差を感じる。

3)説明会を各地でやるのはいいが、地域ごとに意見の温度差がある。地域間の意見交換ができる場を定期的に設けてほしい。

4)IPPJは利益追求の会社であり、CO2削減を目的にした会社ではないのでないか。

→A 1)観光客が減少したとしてもその原因の判断はむずかしい。原因がはっきりすれば無視できない。影響があれば中止する。観光と共生できると思っている。)上田市側の菅平では1月と3月に説明会を行った。上田市でも説明するよう県からも指導されている。うまく対応できてないので反省している。

4)会社はぎりぎりの採算でやっている。大企業と違い社員総数15名(内5名は保守要員)である。地球環境のためになると思っている。

→A 善財部長。

2)市内外にシコリは残るかもしれないが、これを乗り越えていかなければならない。市長は今日は別の予定で来てないが、内容は報告する。

3)説明会を多くしても出席者があるか不明。

再 Q. 市のパンフには自然と共生する街づくりを基本方針とするとある。是非そうなるようお願いしたい。環境影響評価項目に住民間のミゾの問題も追加してほしい。

●Q 峰の原男性。

1) 説明資料を配布してほしい。

2) 気象協会は第 3 者としての立場を忘れないでほしい。

→A 1) 事前に配布する約束だったが、枚数が多くなったので省略した。

→A 市渡辺課長。

1) 市から配布する。

→A 魚崎氏。

2) 気象協会は財団法人であり、公益・公共性に努めている。国の風力発電関係の平成 18 年度の補助金金額は対自治体等 52 億円、対民間 353 億円であった。民間主導で風力を推進するのが、国の政策である。

●Q 峰の原男性。

1) 環境影響評価は住民にも分かりやすいものにしてほしい。

2) 景観判断のための合成写真は観光客にも見せて意見を聞いてほしい。

→A そうする。

■渡辺課長閉会。7/11 日に地域づくり市民会議が峰の原で予定されている。

7/6 仁礼会館での説明会結果

●田中区長あいさつ:

地球を壊すようなものでないなら推進したい。

●高橋理事長あいさつ:

風力発電の話は駒津ケンイチ前理事長のとき最初に出た。(*)

温暖化は大変なことだ、IPCC,+6度 C、CO2 削減・・・。

●善財部長あいさつ:

市は情報提供に努める。災害、水源、生態を心配する意見出ている。

地元区、市の同意が必要。県も慎重に検討すべき地域としている。

●駒津事務局長あいさつ:

温暖化の影響は深刻。IPPJ の事業性を見極めて判断。今後の調査結果見て判断。

●IPPJ 清田氏の説明(7/4 公民館と同じ部分は省略)

現地法人は今年8-9月の設立めざす。(*)

工事中搬入路は道幅5m、保守用道路は道幅3m。(*)

質問と回答

●Q 仁礼区女性。

1) 水源は絶対大丈夫か。

→A 調査中です。

2) 基礎工事は深いが水源は保証できるか。

→A 影響調査します。

3) 景観に悪いのでないか。

イヌワシに影響でると言っている。

→A 調査結果みて判断します。

4) 外国製風車は日本の風に合わないという。

→A ドイツ・デンマーク製は平坦地用だが、スペイン製は山岳地でも問題ない。(＊)

5) 五六災害の危険性ないか。

6) 長い羽を運ぶ幅広い道作るのではないか。

7) 円筒形風車の方がいいのではないか。

→A 風向変化には利点あるが大型化困難。

(質問の直後、男性の大声ヤジ「冒頭の説明と重複して説明しなくていいから」と。威圧的雰囲気で一瞬場内凍る)

しばらく後で女性が補足。

○私は風力発電そのものに反対している訳ではなく、場所が問題だと言っている。

→A 事業は補助金 1/3、銀行融資 2/3 でやる。銀行融資は補助金より厳しい審査があるので、心配はいらない。

●Q 仁礼区男性。

1) 温暖化対策で政府も補助金だしており、推進に賛成。

2) イヌワシは50年前には見たが、この40年間一度も見えてない。風車はゆっくり廻り、衝突するはずがない。

→A 「私も見たことない」。羽回転は毎分10回転位で、羽先端速度は時速200km くらい。里美牧場ではトビが通り抜けていったと聞いた。

→A 魚崎氏。実際、飛んでいる。広範囲に飛ぶので場所を調査している。

3) 若干の犠牲はある。反対派の人も CO2 出している。車にも乗らないとでもいうのか。

4) 市の態度は一度も聞いてないが、どういう対応か。

→A 善財部長。新エネルギー推進の立場だ。今回の場所での問題点は調査中だ。

5) 須坂市以外の者が反対している。黙っている人は皆賛成だ。新聞も考えて報道してほしい。

●Q 菅平男性。CO2 削減には賛成だが、場所が悪い。根子岳は地元の人々にとってシンボルだ。壊してほしくない。

●Q 峰の原男性。

1) イヌワシを観察しているか。

→A 魚崎。毎月のように飛んでいる。詳細な場所を調査している。

2) 短期間の調査でわかるのか。生態を知るには長い期間かかるはず。

→A 魚崎。調査は限られた期間になるが、専門家や審議会委員に調査結果を報告し、調査不足

だといわれれば従う。

3) 地元では隣同士で幼なじみに対立し、ストレスがたまっていく。

4) 日本の総電力の何%を発電できるのか。事業費 50 億円余もかける価値があるのか。懸念が過大でないか。

→A 0.0 何%くらいだ。(注、2010 年で風力は全電力量の約 0.2%、根子岳はその 1/100 以下、従って、約 0.002%以下)

●Q 仁礼区男性。影響はないとはいえないが、わずかだ。憶測で反対せず、調査結果がでてから賛否をきめればいい。CO2 を50%削減するためには生活を変える必要がある。

●Q 仁礼区男性。私は風力賛成だ。地区外の者がとやかく言うことはない。反対している人はこの地に骨を埋める覚悟があるのか。

●Q 峰の原男性。

1) 話合いの場なので話合う雰囲気やってほしい。

2) 説明会の会場は3ヶ所に分かれているが、会場毎に参加者に温度差がある。それぞれの地区の人が意見交換できる場を作ってほしい。

●Q 仁礼区男性。風力の耐久性は？ 保守はどうするのか？

→A 寿命は、羽根 20 年、鉄柱 50 年、契約は 17 年です。保守員数名が現地近くの別荘などを借りて駐在する。

●Q 仁礼区男性。仁礼会は事業者に土地を貸さないこともあるか？

→A 駒津氏。まだ未定。理事会で決定することになる。

「根子岳風力発電を考える連絡協議会」事務局

〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1278-2273 木村方

Tel/Fax: 0268-74-1833 E-mail: rochdale@ma.0038.net

<http://sugadairanr.com/default.aspx/>